

■部会 Report

国際部会の活動紹介

日本風力発電協会 理事（前）国際部会長 石原 茂雄
J F Eエンジニアリング株式会社

はじめに

本稿では、本年5月27日の定時総会で報告させて頂きました、国際部会における2007年度活動の概要と2008年度の活動計画について記述致します。

2007年度活動の概要

①副部会長の交代

昨年の石原部会長、坂本副部会長、森部会担当理事体制から、2007年6月の定例理事会において、石原部会長、高橋副部会長、吉田副部会長体制に代わりました。

②GWEC運営委員会への参加

新体制の3氏がGWEC運営委員を務めることとなり、昨年度9回開催された各委員会に出席し積極的にサポート活動を行いました。また、2005年度に発足した「GWEC運営委員会活動協賛金」は、残高約32万円となっています。

③GWEC理事会参加

2007年6月にロサンゼルスで開催されたGWEC理事会に、JWPAから安国際部会員が参加しました。理事会において議事に関する発言や議決権を行使するとともに、日本における国際会議構想について発表及びヒアリング、Wind Power Monthlyとの折衝などを行いました。

④「欧州洋上風力最新事情調査2007」の企画

大規模洋上風力発電所の開発・建設と最新事例の調査を目的として、2007年9月2日から8日にかけてスウェーデン、ドイツ、オランダ各国を訪問するツアーを企画し、多数の参加者を得成功裡に終わることが出来ました。

⑤ゼルボスGWEC会長との意見交換会

RE2007参加のため来日されたゼルボス会長と、2007年10月13日GWEC運営委員会有志で夕食を取りつつ意見交換を行いました。

⑥NEDOからのヒアリング

NEDOエネルギー・環境技術本部国際事業統括室井上室長他2名が2008年5月7日協会に来訪、今後取り組むテーマ等のヒアリングを受けました。

⑦「国際部会ニュース」の発行

本年度は発行しませんでした。

⑧GWEC/EWECからのニューズレター及びEメールの受信

2008年度活動の概要

①GWEC運営委員会のサポート

昨年に引き続き選出された運営委員を中心に本委員会に関わる業務のサポートを行います。又、10月に北京で開催されるGWEC理事会に部会員を派遣の予定です。

②GWECへの国内事情発信

事務局の協力を得ながら国際統計（1～12月で集計）に資する風力発電導入量のデータ整備を推進致します。又、公知の情報を中心にGWECへの情報発信を試みる予定です。

③Wind Dayのサポート

6月15日に世界各地でWind Dayに因んだ催しが開催されますが、日本では横浜市の風車親子見学会が予定されており、費用負担を伴わないサポートを行います。

④「国際部会ニュース」の発行

一昨年再開した「国際部会ニュース」を本年もトピックに応じ不定期に発行し、会員への情報発信を図ります。

⑤GWEC/EWECからの受信メールの会員への発信

協会誌への掲載により情報提供を図ります。

おわりに

2年間国際部会長を務めさせて頂き、力不足は感じつつも会員の皆様のご支援のもと精一杯部会活動に取り組む事が出来ました。2008年度は新体制に移行しますが、今後とも国際部会を暖かく見守って頂けます様お願い申し上げます。

TOPICS BOX



【グローバル・コンパクト

global compact】

「地球規模での協定」という意味。1999年1月、スイスのダボスで開かれた世界経済フォーラムの席上で、コフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱し、翌2000年7月に米ニューヨークの国連本部を拠点として発足したネットワークです。

世界各地の多くの企業や労働組合、市民社会組織が参加しており、目的は、グローバル化した世界経済が引き起こしかねない様々な問題を解決するため、企業が一致団結し、市民社会と手を組むことによって、地球市民としての立場からその責務の推進を求めるといったもの。

日本からは現在、50を超える企業のほか川崎市も参加しています。

（日経エコロジー2008.2月号より）



TOPICS BOX



【大洋から消えていく生き物たち】

各地で横行する乱獲などによって、過去50年で世界の大型捕食魚は9割近く消え去った。気候変動の影響も加わり、今後絶滅の危機にさらされる海の生物は増えていく一方だ。その一部を紹介する。

《クロマグロ》

高級食材で本マグロともいう。東大西洋と地中海では漁獲規制を破る違法漁業も横行し絶滅の危機。WWFは地中海産クロマグロのボイコットを提唱。

《サンゴ》

沖縄県南西部の日本最大の珊瑚礁、石西珊瑚では1980～2003年に75%が死滅。開発による破壊に加え、地球温暖化による水温上昇で白化し、今後25年で世界のサンゴ礁の60%が失われるという研究も。

《タイセイヨウダラ》

ダラは一般的な食用魚で繁殖力が強い。乱獲され、大西洋では年平均400万ト以下になった。カナダ政府は92年、北東部ニューファンドランド沖でのダラ漁を禁止。

《オニイトマキエイ（マンタ）》

漁獲対象でなくても、ウミガメからイルカ、海鳥まで網にかかって混獲されて死ぬ生物は多い。ダイバーに人気のマンタもその犠牲に。IUCNは準絶滅危惧種に指定。

《ウミガメ》

何億年前から海（ニューズウィーク日産卵してきたウミガメ 本版2008.3.26より）人の心を打つ。最大のワミガメ産卵地であるフロリダ州南部の個体数は過去10年間で半減。底引き網漁やはえ縄漁による混獲と海岸の開発と海水面の上昇も加え絶滅危機に。

（ニューズウィーク日本版2008.3.26より）

